

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年 10月 18日

【評価実施概要】

| | |
|-------|--------------------------------|
| 事業所番号 | 1070600323 |
| 法人名 | 有限会社グループホーム恵の家 |
| 事業所名 | グループホーム恵の家 |
| 所在地 | 沼田市沼須町750 (電話) 0278-23-5578 |

| | |
|-------|----------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構 |
| 所在地 | 群馬県前橋市新前橋町13-12 |
| 訪問調査日 | 平成20年9月8日 |

【情報提供票より】(20年 8月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|--------------|---------------|----------|
| 開設年月日 | 平成 14年 8月 1日 | | |
| ユニット数 | 1 ユニット | 利用定員数計 | 9 人 |
| 職員数 | 12 人 | 常勤 9人, 非常勤 4人 | 常勤換算4.9人 |

(2) 建物概要

| | | | |
|------|--------|------|------|
| 建物構造 | 木造平屋造り | | |
| | 1階建ての | 1階 ~ | 1階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | |
|---------------------|----------|----------------|---------------|
| 家賃(月額) | 40,000 円 | その他の経費(月額) | 水道光熱費:月5,000円 |
| 敷金 | 無 | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 無 | 有りの場合 償却の有無 | |
| 食材料費 | 朝食 | 300 円 | 昼食 300 円 |
| | 夕食 | 400 円 | おやつ 0 円 |

(4) 利用者の概要(8月 1日現在)

| | | | | | |
|-------|--------|------|-----|----|-----|
| 利用者人数 | 9名 | 男性 | 1名 | 女性 | 8名 |
| 要介護1 | 1名 | 要介護2 | 2名 | | |
| 要介護3 | 2名 | 要介護4 | 3名 | | |
| 要介護5 | 1名 | 要支援2 | 0名 | | |
| 年齢 | 平均 89歳 | 最低 | 79歳 | 最高 | 95歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|--------------------------------|
| 協力医療機関名 | 青木クリニック・沼田脳神経外科・沼田クリニック・沼田口腔外科 |
|---------|--------------------------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は田畑に囲まれた住民集落の一角に位置し、近隣には神社や公民館、商店等があり、地域住民の生活の息吹が感じられる環境下にある。入居者の大半が近隣の出身であり、運営者や管理者、スタッフも地元民であるため、地域住民や地区組織等を巻き込んだ活動を積極的に展開している。運営者から一スタッフに至るまでの全ての職員がケアの現場に携わり、理念を踏襲したケアのあり方を一丸となって追求している。その心意気が、入居者個人の身体的・精神的なケアをはじめ、環境整備、人間関係づくり・仲間づくり、地域住民との協働・共存等の多岐に渡る場面に反映されている。また、見出された課題に対して一步一步確実に取り組みを行う、現状にとどまらずに発展している事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|-------|---|
| 重点項目① | <p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の結果を受けて、職員を段階的に教育していく計画づくりに取り組んでいる。</p> |
| | <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、スタッフ1人1人の意見を吸い上げ、管理者が総括する形を作成されている。</p> |
| 重点項目② | <p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>事業所を地域住民や地区組織等にPRする取り組みを行っている。事業所は、地域活動への参加や消防との共同避難訓練等を常日頃から念頭においており、今後も継続した積極的呼びかけを行っていただきたい。また、会議メンバーからの情報提供や意見交換、地域の介護や福祉に関する相談等も行える体制を築いていただきたい。</p> |
| 重点項目③ | <p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族には、面会や電話、毎月の事業所便り等でホームの出来事、予定等を知らせている。また、玄関には意見箱も設置し、家族から不満・苦情等を出しやすい環境を整え、実際に不満・苦情等が寄せられた場合は、職員会議で話し合い改善するようにしている。事業所に不満・苦情等を言いくい家族のために、市や県の相談窓口を重要事項説明書に記載するとともに口頭にて紹介している。</p> |
| 重点項目④ | <p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>入居者をはじめ、運営者や管理者、スタッフも事業所の近隣の人が多いため、地域活動には積極的に参加している。運動会やお祭り等に出かけたり、近所の人がお茶を飲みに来てくれたり、話をしに来てくれたりと往来を行っている。消防との共同避難訓練の実施や、近隣の介護や福祉に関する相談事対応の拠点になることを期待したい。</p> |

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|---|--|------|-----------------------------------|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 開設当初から掲げている「個人を尊重し安全で安楽な生活を支援する」という理念には、住み慣れた地域での入居者の安心した暮らしを担保する意味合いを含んでおり、地域生活の継続を支えるための独自の理念を作り上げている。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 理念を踏襲した月毎の目標を設定し、職員が同じスタンスでケアに当たれるよう努めている。日々の会話、毎日のケアの中で、理念の実践に向けて日々努力している。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 経営者が地元住人ということで、地域の方との交流が多く、中学校や町の運動会、自治会が主催する春祭りや秋祭りに招待され、入居者とともに参加している。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 自己評価は、管理者が中心となりスタッフの意見を吸い上げて評価している。しかし、評価の意義などの教育が徹底されていない。前回の改善点は、すぐに取り組みされて改善されている。しかし、検討された会議の記録を残していない。 | | |
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 会議は2ヶ月に1回開催され、家族が出席しやすいように行事等と併せて開催している。会議では、ホームを理解してもらうことや見学、入居者状況の報告などを行っている。外部評価結果の報告も行い、サービス向上に活かす努力をしている。しかし、地域の方に地域密着型サービスについての目的や位置づけなどを伝える手段がない。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------|----|--|---|------|-----------------------------------|
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 市役所(高齢福祉課・介護保険課)に頻繁に足を運んだり、電話等で相談にのってもらっている。具体的には、グループホームを希望している人や他のグループホームの情報提供を受けたり、成年後見制度や人権擁護に関する行政的な意見交換を行ったりしている。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 毎月「恵の家通信」を発行し、ホームの出来事、予定などを知らせている。また、面会時には近況を家族へ必ず伝えている。その他個々に変化等あった場合には、随時電話や手紙で知らせている。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族には訪問時に何でも言ってもらえるような雰囲気づくりを心がけている。また、玄関に意見箱を設置している。出された意見、不満・苦情等は、職員会議で話し合い改善するようにしている。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 職員の異動はないが、退職等で入居者に心理的なダメージを与えないよう、スタッフ全員が特定の入居者と密な関わりを持たないよう留意し、分け隔てなく支援する努力をしている。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 段階に応じての研修を計画し、実施している。その他、研修内容を管理者が判断し、必要な研修に随時受講してもらっている。研修報告は行っており、学習の成果については十分ではないが日常のケアに活かされている。 | | |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 地域密着型サービス連絡協議会に加入し、年2回他事業所との交換交流をおこなっている。また、連絡協議会主催の研修に積極的に参加し、他事業所の方と意見交換や情報交換を行ってケアに活かしている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|---|---|------|----------------------------------|
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気や徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 安心していられる場所というイメージを持っていただけるように、帰宅願望のある時には家まで送ったり、自宅で過ごしていた時とできるだけ近い居室づくり等の柔軟な対応を行っている。また、家族から本人の生活歴や性格などの情報を聞き、それに配慮した対応をしている。待機者の方には、入居を待ちながら共用型のデイサービスを利用してもらい、少しずつ時間をかけて馴染んでもらっている。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 一緒にテレビを見たり、歌ったり、休んだり、喜怒哀楽を共にできる環境作りをしている。また、入居者の方と会話をした中から学ぶこともあり、お互いが協働しながら自然に寄り添える関係づくりに留意している。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 一人ひとりの思いや暮らし方の希望に沿うことは、理念に掲げたケアの基本としており、家族との情報交換を密に行い、支援を求めている家族にいつも耳を傾け、本人本意で生活できるように支援している。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 入居者が自分らしく暮らせるよう、できるだけ入居者および家族との意見交換を行い、その意見を反映させた介護計画を作成している。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 3ヶ月毎に、運営者からスタッフに至る全職員同席による会議にて介護計画の見直しを行っている。また、変化時は、朝の申し送りやスタッフミーティング時に申し送りをし、随時現状に即したケアを提供している。変化の様子や兆候等をふまえた介護計画の変更を行っている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------------|----|---|--|------|-----------------------------------|
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 共用型のデイサービスを開設しており、現在1名利用している。本人、家族の状況に応じて、また、毎日通院が必要な入居者に付き添い、送迎等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足を高めるように努力している。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 事業所の協力医の他、入居者のかかりつけ医の医療を受けられるよう、訪問診療に来てもらったり、医療相談にのってもらような関係を築いている。また、家族と協力し、通院介助を行うなど医療を受けられるように支援している。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | これまでに、3回の看取りを行っている。重度化に伴う意志確認書を作成しており、早い段階から家族、かかりつけ医との話し合いを行い、全員で方針を共有している。また、協力医にお願いして、重度化、終末期についての勉強会も検討している。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 職員は、プライバシーに配慮した言葉遣いや介助をいやがる入居者にはさりげなく促すような支援をおこなっている。記録物はすぐに関覧できる棚に収納してあるが、職員の監視が行き届いている。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | おおまかな流れはあるが、一人ひとりのペースを大切にし、歌を歌いたい方、散歩に行きたい方、部屋で休みたい方などその日の希望に沿って支援している。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|----|---|--|------|---|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 野菜など近隣の住民が差し入れしてくれることが多く、献立はその日その日で決めている。手伝いができる入居者と一緒に食事の準備や後片づけが行われ、職員も一緒に食卓で食事を摂っている。体調に応じて食形態の対応もしている。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 入浴したい日、希望する時間があれば、いつでも対応している。入浴を嫌がる方には、大好きな話をしたり楽しくなる工夫をして安心できる雰囲気作りをしている。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 職員の声かけで、歌の好きな方はナツメロや童謡を歌ったり、洗濯物をたたんだり、食事の準備や後片づけなど自主的に役割を担っている。月1回の外食や誕生会など楽しみごとの支援を行っている。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | その日の天候や入居者の希望に沿って、日常的に散歩や買い物に出かけたり、外食、ドライブ等戸外に出られる機会を作っている。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 管理者と職員は、鍵をかけないことを当然のことと理解している。入居者が散歩に出たいときはさりげなく付き添い、家に帰りたい時は家まで送っていき納得した状態でホームに戻れるように対応している。近隣住人の協力も得られている。 | | |
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 毎年、年1回から2回行っているが、今年はまだ行っていない。地域の参加はない。また、緊急連絡網、災害に備えた備品、マニュアル等も整備されていない。 | ○ | 早期に防災計画を立て、地域を巻き込んだ訓練の実施を期待する。また、災害に備えての備品や防災マニュアル、緊急連絡網の整備を望みたい。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------|----|---|---|------|--|
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事や水分の摂取状況は、毎日の生活日誌に記録している。好みのものや馴染みのものが摂れるように、食べたいものを聞いて献立に取り入れる等工夫している。また、体調不良時には少しでも栄養が摂れるように形状や固さを変えて食べやすくしたり、高栄養のものを提供している。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 広い庭には芝生が広がり、開放感がある。居間、食堂、応接室を兼ねた空間は家具で3つに仕切り、それぞれの機能を担って居心地良く過ごせるよう工夫されている。浴室は生活感が感じられるが、洗剤や洗濯物、カゴなど定められた方法で収納されていない。 | ○ | 認知症を有する高齢者にとって、生活感を忘れないような環境づくりは大切であるが、事故防止の観点を併合した工夫を試みていただきたい。浴室を清潔、安全で気持ちよく使えるように、ホームで景観を損ねない方法を検討していただきたい。 |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室には、本人・家族の希望を取り入れながら、タンスや椅子などが持ち込まれ、居心地良く過ごせるように配慮されている。自宅で畳の部屋で生活されていた入居者には、畳が敷かれるなどできるだけ自宅に近い環境づくりをしている。また、壁には家族の写真やレクリエーションで作成した作品等が飾られ、入居者個々に味わいのある居室になっている。 | | |